

開講式の後、職員の方から「ふるさと文学の発信について」と題して、文学館の役割や富山の文学の特徴を説明していただきました。クイズ形式で文学館や富山ゆかりの作品や芥川賞作家についてご紹介いただき、理解が深まりました。

その後、解説を聴きながら、常設展と企画展を観覧しました。常設展示室も定期的に展示替えが行われており、毎回、新たな発見があります。

企画展「アニメ監督×万博プロデューサー 河森正治 展」では、河森さんのインタビュー動画が各所にあり、作品のコンセプトや作品に込める思いを直に聞くことができました。また、展示室には河森さんが納得のいくまで描き直したデザイン画が壁一面に貼られており、プロの作家のすごさを感じさせる展示となっていました。



企画展観覧の様子



(上) 班で絵を読み解く様子
(下) 発表の様子

午後のワークショップでは、「絵本の絵を読み解く」活動を行いました。3冊の絵本を6グループで分担し、絵本の中のことば（テキスト）や絵（イラスト）の工夫をできるだけ多く探し、その上で、絵本の主題を考えました。

それらをポスターにまとめ、最後に、グループ毎に発表しました。絵本の該当箇所を指し示したり、ポスターを効果的に使ったりして工夫をこらし、説得力のある発表を心がけました。

<生徒の感想>

- ・富山出身の著名な文学者が想像以上に多くいることに驚いた。
- ・作家にとって、「富山」という土地の豊かな自然や、その中で育った体験、土地柄などが、創作に大きく関わっていると感じた。
- ・富山の雄大な自然に影響を受けたアニメ監督河森さんの作品をみて、作品には作者がどのように生きてきたかが反映されるのだと思った。
- ・河森氏の作品には「横浜と富山の振幅」が影響していることを知った。旧平村と河森氏の作品の関連性を考えながら、富山の良さを探った。
- ・この企画展で私が最も惹きつけられたのが、展示室の壁一面に展示されたメカの絵やアニメの絵コンテだ。細部まで描き込みがされており、河森さんのメカに対する熱意が感じられた。
- ・絵本を時間をかけて細部まで読むという原体験ができた。絵本を注意深く読んでみると、色使いや背景など細かなことにも意味があり、子どもだけでなくどんな人でも楽しめる工夫がされていることがわかった。
- ・物語の終わりを作者が定めず読者に想像させる「オープンエンド」という手法があることを知った。物語が終わったあとも皆で楽しめる工夫があるのは興味深い。
- ・普段学校では、早く正確に正解を出すことを求められるが、どうしてそうなるのかをじっくり考えて、間違っている自分なりの考えを導き出すことが必要なのではないかと思った。自分自身でじっくり探究することの大切さに気づけた。